



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



グローバル化の推進にむけて

歯学部長 宮崎 隆

政治, 経済, 社会活動, すべてがグローバル化の波にさらされています。教育においても同様であり, グローバルに活躍できる医療人の育成は本学の教育目標の一つです。本学では国際交流センターを中心に学生への支援, 海外からの留学生の受け入れ, 教員の交流を積極的に進めています。現在, 大学として4つの姉妹校協定を結び, 歯学部間の協定校は10校になり, 本学学生が海外で研修を受ける機会や, 留学生(短期の選択実習)の受け入れも増えてきました。



国は留学生を増やす計画を進めています。「歯科評論」誌で「留学生受け入れによる国際連携について」全国の歯科大学・歯学部の取り組みを順番に紹介しています。本学の取り組みについても先般寄稿しましたが, 他大学と比較して, 宿舍の提供や奨学金の給付など恵まれた環境にあります。

一方, 日本から欧米の大学に進学する学生が増えているように, 高等教育の機会は世界中で開放されています。米国だけでなく, アジアの大学も世界から学生を集める時代になりました。グローバル化の流れは, アジア諸国がはるかに先を行っています。先日台北医科大学の創立50周年記念式典に参加の機会を得ました。この大学はアジアのみならず, 北米, 南米, 欧州, アフリカを含めて実に100校もの交流校を有し, 式典も国際色豊かでした。欧州はEU統合により, 歯学教育でも我々が参考にした共通のコンピテンシーが制定されました。東南アジアでも歯学教育の共通化が進められています。中国では独自にインド, アフリカ諸国からも学生を募集しています。

このように世界中でグローバルなネットワークが進む中, 本歯学部は, PBLの導入や技能評価(OSCA)を通じて, 香港大学, アデレード大学, 南カリフォルニア大学など環太平洋の大学間で国際FDを推進してきました。しかし, まだ十分とは言えません。

このたび, 7月から半年間, 南カリフォルニア大学から世界的に高名なお二人の教授を招聘します。高齢者歯科・障害者歯科のマリガン教授と, 口腔内科(オーラルメディスン)のクラーク教授です。両教授に

は本学教員を対象に国際FDをかねた講義と, スモールグループのセミナー, さらに, E-learning コース(補綴学会と連携)を開講してもらいます。講義は学部学生や大学院生にも選択科目として開放します。米国の講義スタイルや教育資源を体験する良い機会になるでしょう。両教授の専門領域は, 医系総合大学の一員としての本歯学部にとって重要な領域です。この機会を利用して, 両教授を交えて, 皆で歯科医療の将来展望を検討いたしましょう。半年間, 本歯学部のさらなるグローバル化にむけて, 皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

近津大地先生の教授就任祝賀会

歯学部同窓会長 飯島裕之

昭和大学歯学部14回生の近津大地先生が4月1日付けで東京医科大学口腔外科の主任教授に就任されました。本学同窓として他大学教授に就任するのは5回生の佐野司先生に続き2人目となります。

同窓会では近津先生教授就任祝賀会を5月29日(土)午後7時より新宿の京王プラザホテルにて開催致しました。

当日は同級生・同窓生・来賓をあわせて約70名の参加があり, 和やかにお祝いの会を開催することが出来ました。来賓として岡野歯科病院長に祝辞を頂き, 近津先生からは就任挨拶の中で昭和大学歯学部卒業後の進路として東京大学口腔外科に入局したことに始まり, University of Connecticut Health Centerへの留学, 留学当時の研究テーマ, 帰国後助教として東京大学口腔外科に勤務されていた経過に至るまでをお話し頂きました。また, 久しぶりに会う同級の14回生とも懐かしい話に花を咲かせていました。

今後も優秀な同窓生が, 様々な場所で広く活躍してくれることを期待しています。



昭和大学白菊の集いが開催されました

口腔解剖学教室 中島 功

平成22年6月5日(土)12時30分より、昭和大学50周年記念館にて平成22年度“昭和大学白菊の集い”が開催されました。“集い”には会員さんと同伴者合わせて歯学部110名、医学部173名の計283名が参加いたしました。この“集い”は医学部と歯学部が交互に担当をしており、今年は医学部の担当で医学部の学生が会員さんの駅から会場までの道案内や会場内での案内に活躍をしていました。“集い”は、医学部の鈴木准教授の司会で行われ、医学部第2解剖学講座の大塚教授の開会の辞に続いて物故会員への黙禱が行われました。さらに細山田学長、小出医学部長、宮崎歯学部長の挨拶が行われた後、医学教育推進室の高宮有介講師による「死から生といのちを考える～緩和ケア医師ががん患者さんから教えてもらったこと～」というテーマで、御自身の数多くのターミナルケアにおける経験談やテレビで放映された番組などの例を交え“死と向き合うこと”についての講演が行われました。大変重い内容ではありましたが、会員の皆さんは熱心に耳を傾けていらっしゃいました。講演は14時に終了し、歯学部口腔解剖学教室中村教授の閉会の辞を持って終了いたしました。



平成22年度父兄会総会開催される

歯学部長 宮崎 隆

平成22年度父兄会総会が、去る6月19日(土曜日)午後1時から本学上條講堂に於いて開催されました。非常に蒸し暑い日でしたが、会場は超満員の出席者でした。四ノ宮父兄会長の議事進行により、平成21年度の決算、および平成22年度の事業計画と予算案が承認されました。父兄会からは毎年、学生会の活動補助、指導担任制度の補助、学生の教材等の印刷補助など、大学の運営に多大な支援を頂戴しています。

同日は総会に先立ち、例年通り午前11時半からD6父母説明会、午後1時からD6学生説明会を開催しました。立川学生部長から大学院と国家試験対策について、井上教育委員長から卒業判定について、古屋臨床研修医マッチング支援委員長から卒業研修制度について、そして長谷川歯学教育研修センター長から本学歯科病院の研修プログラムについて説明が

ありました。

総会終了後、各学部に分かれて、歯学部会が4号館6階600号室で大勢の出席を得て開催されました。宮崎学部長、立川学生部長、および井上教育委員長から、歯学部の現状と新しい教育の内容や目標、さらに進級判定や卒業判定について紹介がありました。最後は7号館に会場を移し、3時15分から4学部合同の懇親会が開催されました。こちらにも多数のご父母の参加があり、細山田学長、各学部長を交えて楽しい歓談をし、午後4時半過ぎに散会しました。



D1プレイスメントテストが実施されました

歯科薬理学教室 山田 庄司

昭和大学富士吉田教育部では、第2回目となる英語のプレイスメントテストが入学式の翌日、4月13日(月)に行われました。まだ授業も始まっていないのに、いきなりテストと聞いて驚いた学生やご父兄もいらしたようですが、このテストを参考にして、学生のレベルに合わせた少人数の授業を行うことで学習効果を高めるための習熟度別クラスを編成します。このテストが成績評価に影響することはありません。

プレイスメントテストは「TOEIC Bridge IP テスト」を使って全学部の学生を対象に行われました。このテストはリスニング問題(90点満点)とリーディング問題(90点満点)の合計180点満点のテストで、昭和大学の全学部平均得点は138.0(昨年:141.0)でした。昨年度の全国の大学入学時の平均点は国立大134.0点、私立大120.0点、専攻別では公立大医薬学系が129.4点、私立大医薬学系が135.0点でした。昭和大学の学生は英語の能力も高いことが示されました。

成績は各クラス別のテストと「TOEIC テスト」で評価されます。歯学部ではこの「TOEIC テスト」を基に、2年次の習熟度別クラス編成が行われます。

診療統計(平成22年5月分)

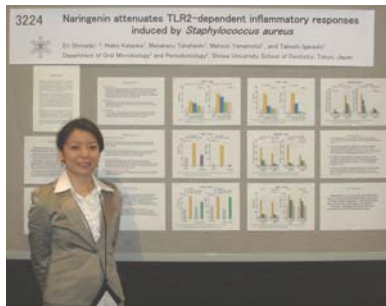
医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,890	734.3	740.2	679.9
入院患者	424	13.7	15.6	14.1

第110回 アメリカ細菌学会に参加しました

大学院4年(病態診断学専攻) 島田 絵里

5月22-27日にサンディエゴで開催されたアメリカ細菌学会に参加させていただきました。学会期間中は天候にも恵まれ、西海岸沿いに位置するコンベンションセンターからはサンディエゴの港を見渡すことができました。アメリカやヨーロッパからの参加者が多い中、日本からも10名ほど参加していました。初めての海外発表のため少し不安もありましたが、ポスターを発表している間、近くの発表者から声をかけられて互いのポスターを発表しあうなど、多くの学会参加者との交流により、少しずつ会場の雰囲気にも馴染めるようになっていきました。アメリカの大学院生の口頭発表を聞きにいくと、非常に活発な質疑応答が行われており、発表者のプレゼンテーションの仕方や質疑応答への対応など、いろいろな面で勉強になりました。今後、今回の海外発表で学んだことを活かしていきたいと思います。このような海外発表を経験できたことを、五十嵐教授をはじめ、教室の先生方に感謝致します。



第12回ヨーロッパ歯顎顔面放射線学会に参加しました

歯科放射線学教室 松田 幸子

来る2010年6月2-5日にトルコのイスタンブールで開催された第12回ヨーロッパ歯顎顔面放射線学会で参加発表しました。参加者は約250名で、多くはトルコから、他にイラン、ギリシャからの演題が多かったように思います。



本学からは、私の他に坂田充穂先生、小児歯科の浅里仁先生が発表され、計4つの演題を発表させていただきました。彼らの演題では、VT (Volumetric Tomography)や CBCT(歯科用 CT)という撮影手法を用いた乳歯う蝕の診断評価に関する演題でしたが、撮影の設定条件についての質問や将来の展望についての質問がありました。また、イメージングプレートを用いたデジタルシステムの耐久性の評価についての発表では、記録媒体の問題点などについて質問があり、問題点を共有することができました。

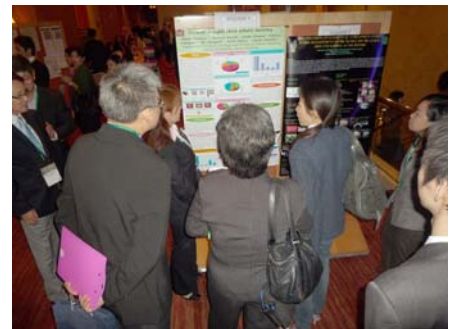
口演の演題数は84題、ポスター発表は176演題

あり、そのなかでも多かったのが、歯科用 CT 装置を用いた症例報告、パノラマエックス線写真を用いた骨粗鬆症の診断の可能性とその精度についてでした。そのほかには、顎関節症の画像検査のガイドライン、画像診断の将来展望として、擬似的に3次元の画像を体感できるシステム開発についての講演を拝聴させていただきました。今回この学会に参加する機会を与えてくださった岡野教授ならびに不在中サポートしてくださったスタッフの皆様にご礼申し上げます。ありがとうございました。

第11回アジア歯科審美学会に参加しました

美容歯科 古川 匡恵

2010年5月13日から17日までマレーシアクアラルンプールで開催された第11回アジア歯科審美学会 (Asian Academy of Aesthetic Dentistry)に参加いたしました。本学会は2年に1度行われる学会であり、審美学会の中でも特に海外からの参加者が多く、注目を集めている学会です。



学会では、選出された者が発表を行いました。審査は3人の審査員に10分間の英語での口頭発表の後、10分の質疑応答を行うという形式でした。

私は「Patients' thoughts about esthetic dentistry」というタイトルで、第11回AAADポスターアワードを受賞させていただきました。内容は、昭和大学歯科病院美容歯科に来院される患者様に、歯ならびに美容に対する意識などを調査し、日本人特有の患者心理、すなわち美容には強く興味があるが口腔内の美に関してはまだ消極的であり、きちんとした患者様への説明を行うことにより治療に対するモチベーションが上がると考察しました。アジアの新しい歯科の流れの中でも日本の歯科審美、患者心理を伝える良い機会になったと思います。

日頃より指導して頂いている真鍋厚史教授、久光久教授、医局員の先生方、そしてこの研究に関わって頂いた患者様にこの場をお借りして心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

認定医・専門医

広報委員長 井上 富雄

日本歯周病学会認定医取得

臼井 通彦 (助教)

鶴見 亜有子 (助教(員外))

府川 有紀子 (助教(員外))

日本歯周病学会 専門医取得

小出 容子 (助教)

A unique experience in Showa University

歯科放射線学教室 Dr. Jaideep Sur

I am Dr. Jaideep Sur, appointed as a 'Foreign Research Scholar' at Showa University School of Dentistry, Tokyo from April 2009 to March 2010. I completed graduation



(Bachelor of Dental Surgery) and post-graduation (Master of Dental Surgery) in dentistry with major in Oral Medicine and Radiology from DAP memorial R.V. Dental College, Bangalore, India. I am fortunate to work in Department of Oral Radiology under supervision of Professor Tomohiro Okano for the duration of 1-year. My major clinical interest was to learn about dental cone-beam CT and its applications. My major research field was on Radiation dose and applications of Diagnostic Reference Level (DRL) in dental radiology. I had also performed clinical researches to determine the radiopacity of restorative resins through linear attenuation coefficients and the durability of photostimulable phosphors (PSP) imaging plates. I have completed publications regarding the image quality and reducing radiation dose on multi-detector CT and cone-beam CT. I am fortunate to be co-author in 4 poster presentations at various International Radiological Meetings in year 2009-2010. During my research program, I have received maximum cooperation from the staff of Oral Radiology, thereby helping me to complete my valuable projects. This was a great opportunity for me in the field of clinical research and academics, as recent advances in imaging modalities like cone-beam CT, CT, MRI are the future of Oral Maxillofacial Radiology, especially in India.

I thank Professor Miyazaki Takashi, Dean, Showa University School of Dentistry and other senior management staff of Showa University for giving me an opportunity to work in this esteemed University as a Foreign Research Scholar. I also thank staff of International Centre of Showa University for their concern and help, thereby making my stay a comfortable and memorable one. I would like to express my sincere gratitude to Professor Nagesh KS (Dean, D A P memorial R.V. Dental College, India) and Professor Okano T, who made this research program possible between India and Japan in the field of Oral Radiology. To summarize, my living, working and travelling in Japan was an amazing experience, which I cherish forever.

平成23年度入学生から学納金が減額されます

広報委員長 井上 富雄

学生の学費負担、特に初年度の学費負担軽減を図るため、初年度の教育施設充実費を医学部と同様に550万円から400万円に減額しました。これにより、初年度納入額は750万円と私立歯科大学で最も安くなり、6年間の納入総額も2,850万円となって2番目に安い学費となります(H21.12現在)。なお、施設充実費免除の選抜I期入試成績上位者(10位以内)は、従来どおりの総額2,450万円となります。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

7月 2日(金) : 夏期スポーツ大会壮行会
7月 3日(土) : 第29回昭和歯学会総会
7月24日(金) : 4学部合同オープンキャンパス
7月30・31日 : 歯学教育者のためのワークショップ(金・土)
8月 7日(土) : 歯学部オープンキャンパス
8月28日(土) : 歯学部オープンキャンパス(模擬講義)

受賞

広報委員長 井上 富雄

・佐藤 友紀(歯科矯正学 助教) : 4月30日-5月4日にワシントンDCで開催された第110回アメリカ矯正歯科学会 Joseph E. Johnson Table Clinic Award を受賞されました。
演題名 : 「Platelet - Rich-Plasma Accelerating Orthodontic Tooth Movement」



・古川 匡恵(美容歯科 助教(員外)) : 5月14日-17日にマレーシアクアラルンプールで開催された、第11回アジア歯科審美学会においてポスター発表部門で優勝されました。
演題名 : 「Patients' thoughts about esthetic dentistry」



編集後記

歯科理工学教室 堀田 康弘

本格的な梅雨に突入し、日に日に蒸し暑くなって、体調管理の難しい時期になりました。今月号は、巻頭でのグローバル化の話に続き、外国人留学生からの原稿、海外での学会報告や受賞報告が続き、まさにグローバル化の一端を感じさせるものとなりました。

末筆になりますが、いつもお忙しい中、原稿を執筆して頂いた皆様には心より感謝申し上げます。